

留寿都村再生可能エネルギー 導入推進計画(概要版)

-2050年ゼロカーボンシティを目指して-

令和5年(2023年)1月

はじめに

背景

- 留寿都村は、札幌の南西約50kmに立地する、自然豊かな**農業と観光を基幹産業**とする地域。
- 地域の豊かなポテンシャルを活かし、風力や地熱といった**再生可能エネルギー（以下、再エネ）**を活用した事業が個別で進みつつある。
- 令和4年に「ゼロカーボンシティ宣言」を表明し、2050年度までにCO2の排出量実質ゼロに向けて主体的に取り組んでいくことを宣言。**今後のゼロカーボンを目指す具体的なアクションに繋げていくための計画が必要**

目的

- 2050年度のゼロカーボンシティの達成にむけて、**ロードマップの整理**、具体的な取り組みとして**留寿都村における再生可能エネルギー導入戦略を策定**
- 本計画で再エネ導入を促進し、**ゼロカーボン化が地域の持続的発展につながる計画を策定**する。

本計画は、（一社）地域循環共生社会連携協会から交付された環境省補助事業である令和3年度（補正予算）二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（地域脱炭素実現に向けた再エネの最大限導入のための計画づくり支援事業）により作成しました。

計画策定の基本事項

計画策定の意義

- 本計画は、留寿都村の自然的・社会的条件を踏まえ、本村の豊かな資源を活用し再エネの導入など地球温暖化対策に寄与するとともに、地域の問題解決および魅力の更なる向上を目指し策定しました。

計画の位置づけ

- 本計画は分野を横断した総合的な長期戦略かつ地域の成長戦略となるため、他分野における行政計画と連携を取りながら施策の検討、策定、実施を行います。また計画の見直し・実施段階において進捗管理を行います。

計画期間と目標

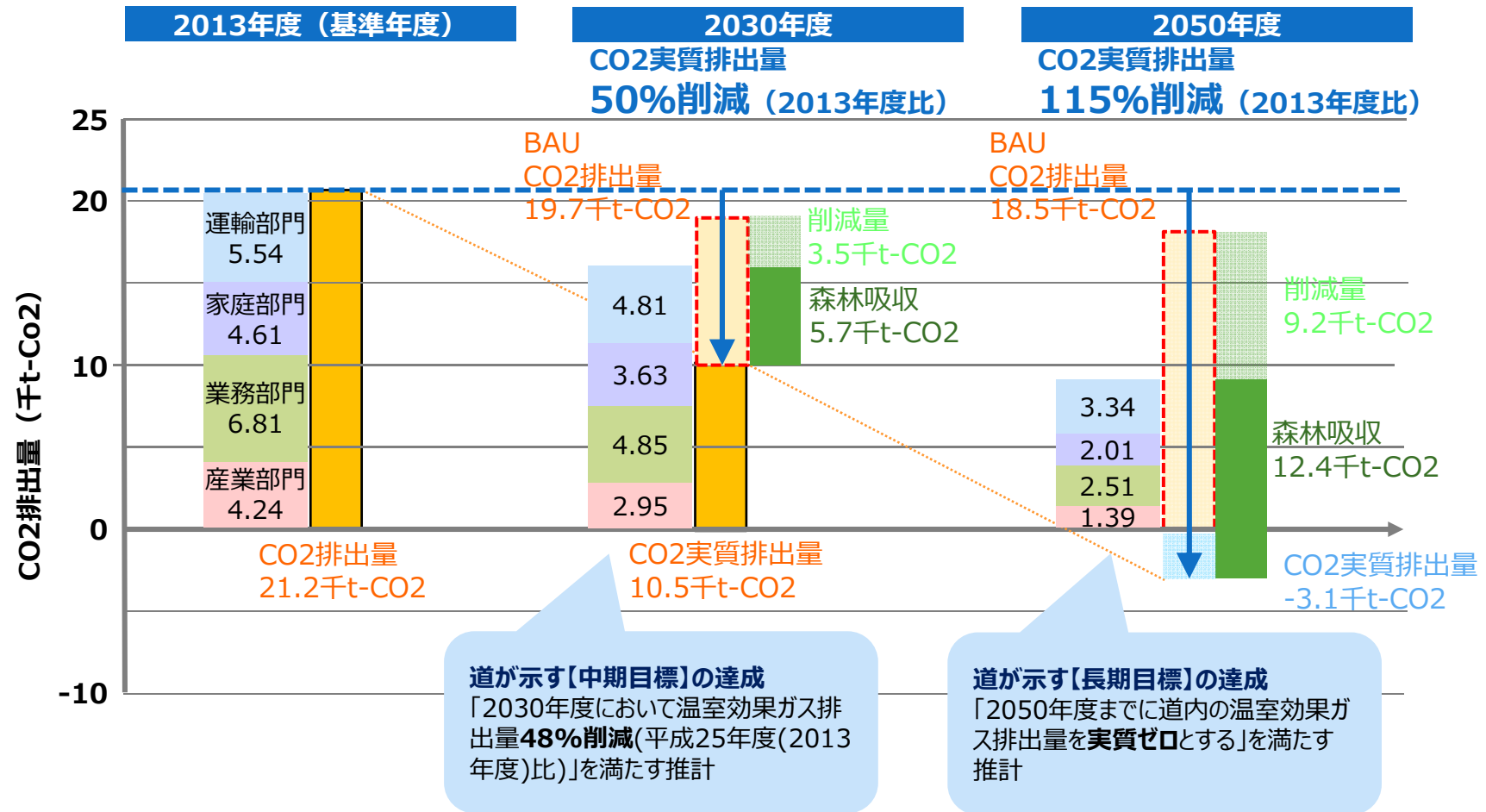
- 2013年度を基準年度、2030年度を中間目標年度、2050年度を長期目標年度とし計画の策定・施策の進捗管理を行います。
- 世界の動向や日本が目指す2050年度のカーボンニュートラル達成に向けて、留寿都村でも実現可能な取り組みを行い、目標達成を目指します。

本計画における計画期間と目標

項目	基準年度	中間目標年度	長期目標年度
年度	2013年度	2030年度	2050年度
CO2削減率	-	CO2実質排出量50%削減	CO2実質排出量115%削減
CO2実質排出量(①-②)	-	10.5千 t-CO2	-3.1千t-CO2
①CO2排出量	21.2千 t-CO2	16.2千 t-CO2	9.3千 t-CO2
②CO2吸収量	-	5.7千 t-CO2	12.4千 t-CO2
再エネ導入量	-	660 MWh エネルギー消費量の約5%	5,171 MWh エネルギー消費量の約25%

CO2排出量の現状と将来推計(温室効果ガス削減目標)

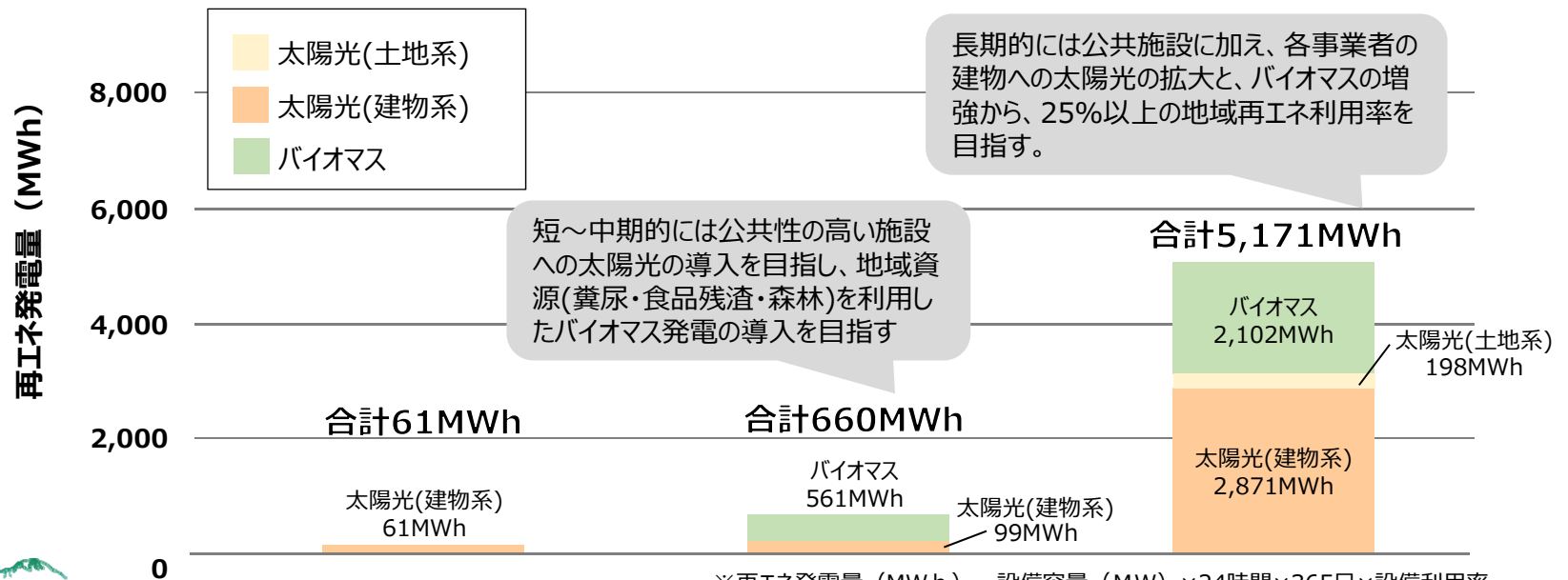
- 留寿都村のCO2排出量の現状を把握し、実現性の高い取り組みを推進した場合の将来推計を行いました。
- 村内での再エネ利用率は、2030年度に5%(660MWh)、2050年度に25%(5,171MWh)としました。
- 留寿都村は**2030年度にCO2実質排出量 50%削減**、**2050年度に 115%削減**を目指します。



再生可能エネルギー導入目標

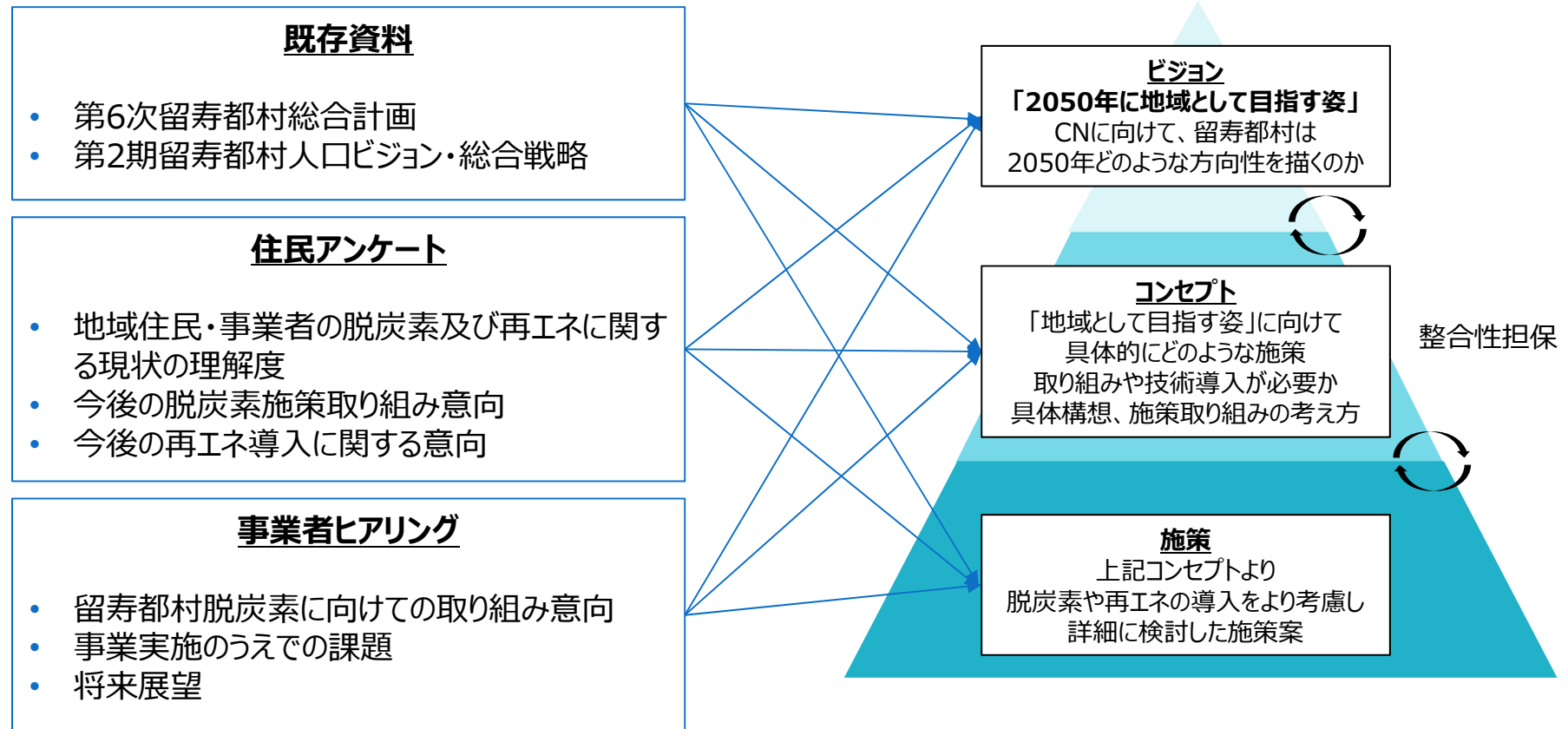
- CO2排出量の削減目標に応じた再エネの導入目標（地域再エネ利用率）を検討しました。
- 地域の再エネの導入ポテンシャル、導入可能性も考慮し、短～長期的に各種再エネを組み合わせた導入目標として**地域再エネ利用率は2030年度に約5%、2050年度に25%**としました。
- 本村では、地熱・風力といった再エネ事業も進行中です。将来的にはこれらの導入も検討していきます。

	2021年度	2030年度	2050年度
エネルギー消費量	15,192 MWh	13,441 MWh	20,421 MWh
地域再エネ利用率	0 %	5 %	25 %
再エネ種別 設備容量目安	太陽光(建物) : 0.1MW	太陽光(建物) : 0.1MW バイオマス : 0.1MW	太陽光(建物) : 2.9MW 太陽光(土地) : 0.2MW バイオマス : 0.3MW



将来ビジョン

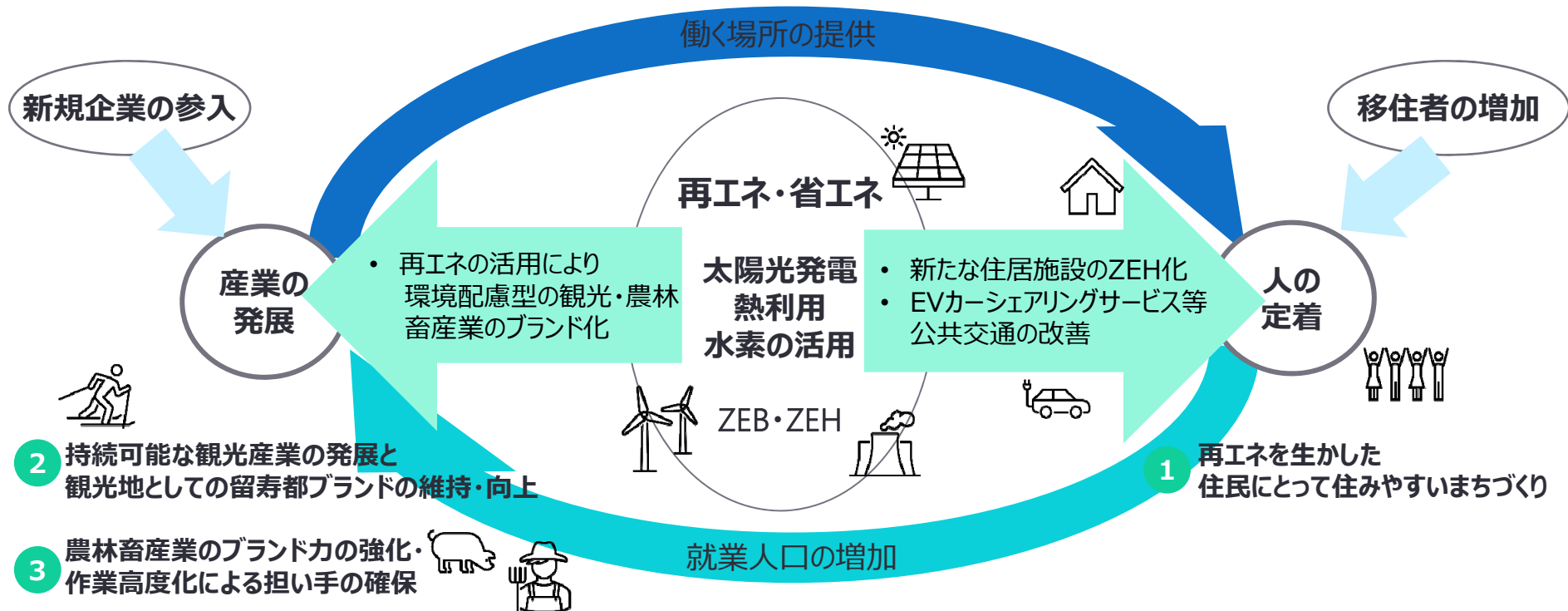
- カーボンニュートラルの実現を目指すにあたり、再生可能エネルギーの導入や省エネ等の施策を実施するとともに地域としての将来ビジョンを描くことが重要です。
- 既存資料・アンケート結果・ヒアリング結果などを参考とし、ビジョン、コンセプト、施策を策定し、それぞれの間で整合性が図られるよう検討しました。



将来ビジョン

- 地域課題である人口減少を解決すべく、住む場所や働く場所を確保し「人の定着」を目指すとともに、留寿都村の強みである農業や観光業といった産業をより発展させていく
- これら相互に関係しあう「人の定着」と「産業の発展」を、再エネや省エネ等の脱炭素施策によってより循環を強めていく

再生可能エネルギーと脱炭素施策を活かし、 人が集まり、働き、暮らしやすい持続的な留寿都村の実現

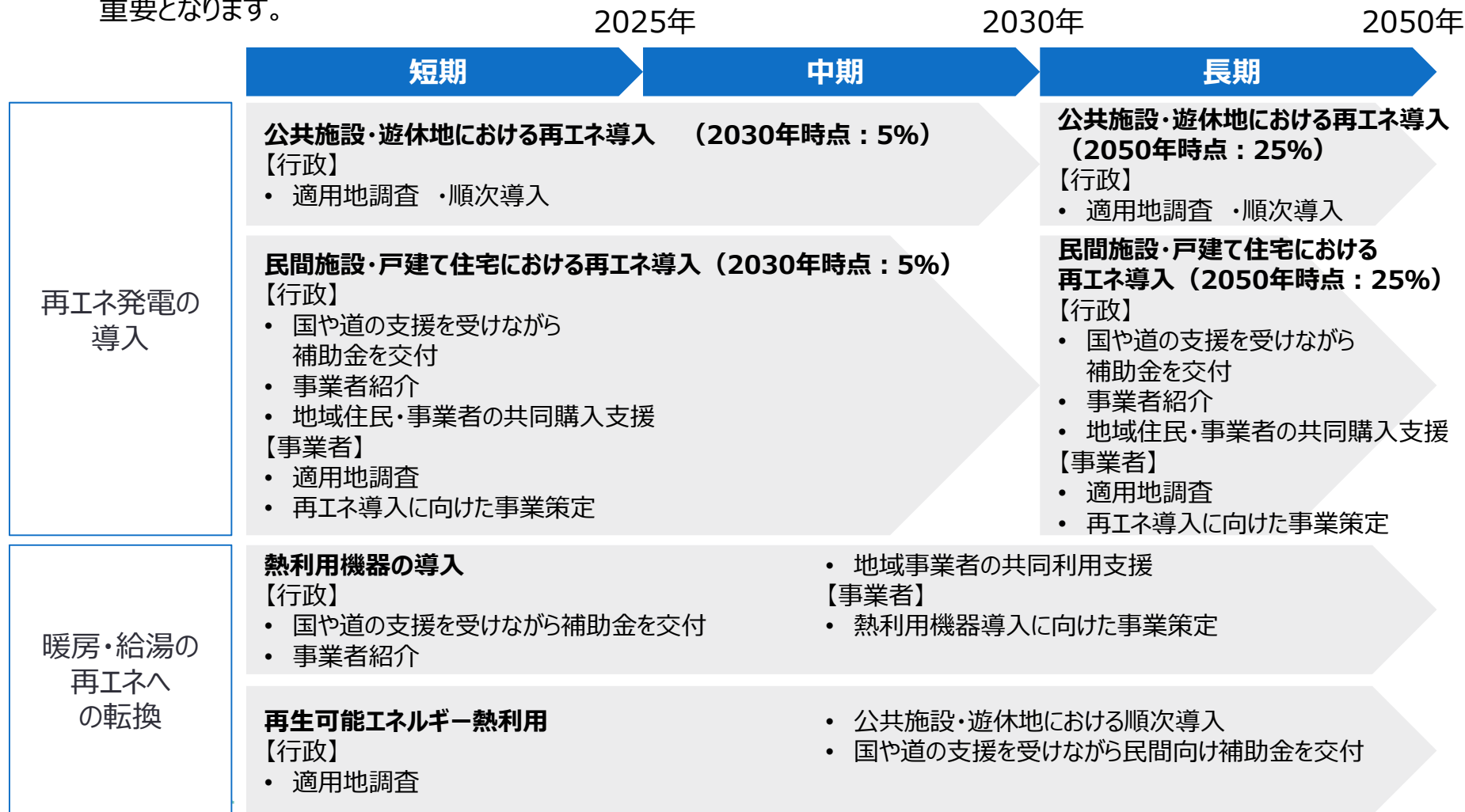


将来ビジョンの実現に向けた施策

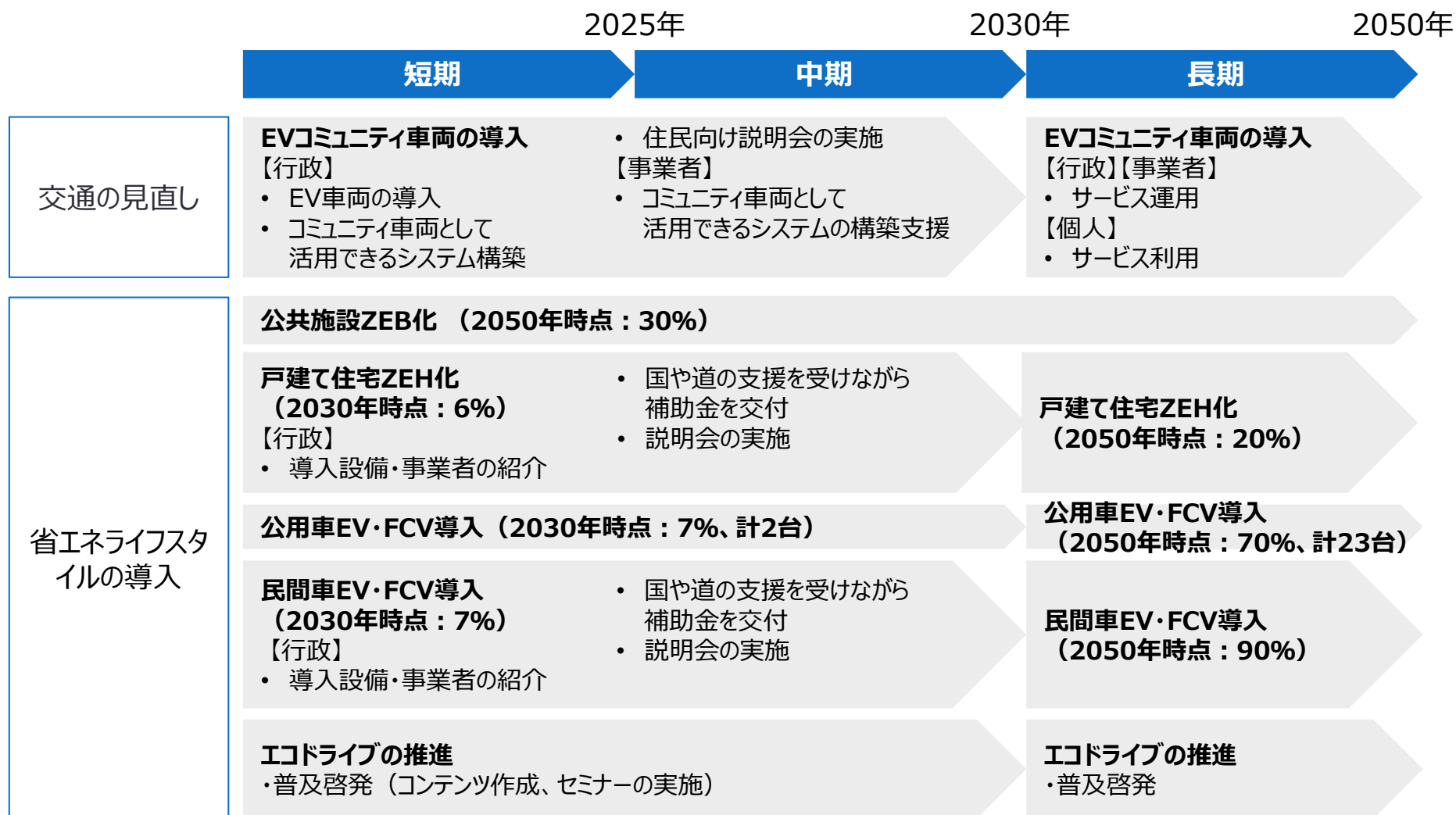
ビジョン案		コンセプト案	施策案
再エネの活用で 人が集まり、働き、暮らし やすい持続的な村の実現	再エネを 生かした住民にとって 住みやすいまちづくり	再エネ発電の導入	再エネ発電の導入
		暖房・給湯の再エネ への転換	木質ペレットストーブ導入 地中熱・雪氷熱の活用支援
		交通の見直し	EV乗り合いコミュニティ車両の導入
		省エネライフスタイルの導入	公共施設・住居施設の建設・補修 時におけるZEB化・ZEH化 公用車・民間車における EV・FCV導入
			廃棄物削減
		防災能力の強化	蓄電池の導入
		環境意識の醸成	環境教育の実施
	持続可能な観光産業の 発展と観光地としての留 寿都ブランドの維持・向上	再エネ・水素活用による環 境配慮型リゾート地 畜産・農業残渣・食品残 渣バイオマス発電の活用	再エネ・水素を動力とするリゾート地 畜産・農業残渣・食品残渣・ 木質バイオマス発電の導入・活用
	農林畜産業のブランドカ の強化・作業高度化によ る担い手の確保	農業・畜産ブランド強化	農業・畜産ブランド強化
		スマート農業・畜産業	6次産業化 スマート農業・畜産業の導入

将来ビジョンの実現に向けたロードマップ

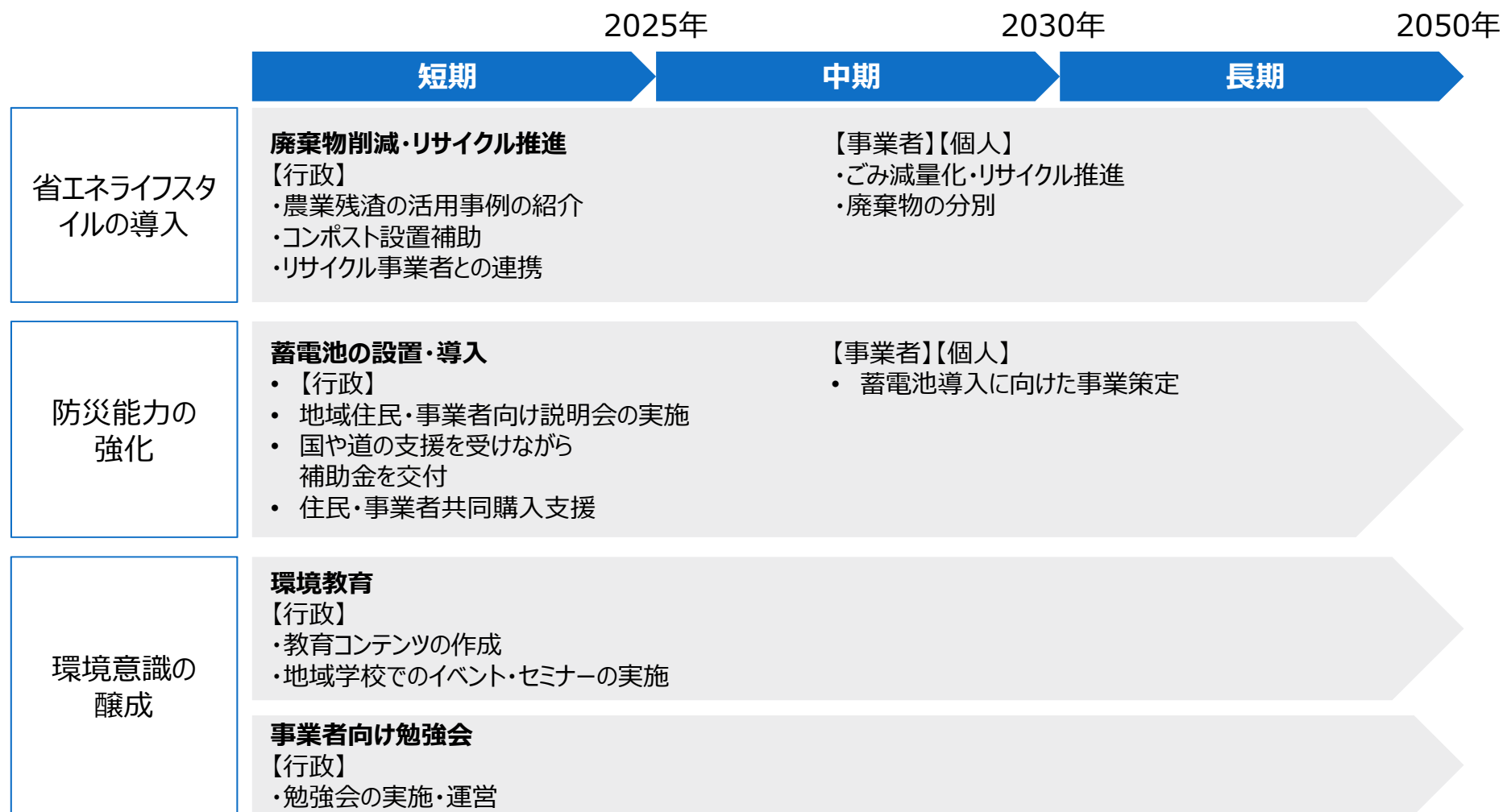
- 将来ビジョン・コンセプトを元に、本計画では2030年度50%以上削減、2050年度115%CO2削減の目標達成に向けた具体的な施策、ロードマップ、そして重要施策の詳細を検討しました。
- 計画達成に向けては、**留寿都村役場と地域の住民・事業者が協力・連携**し、各種取り組みを推進していくことが重要となります。



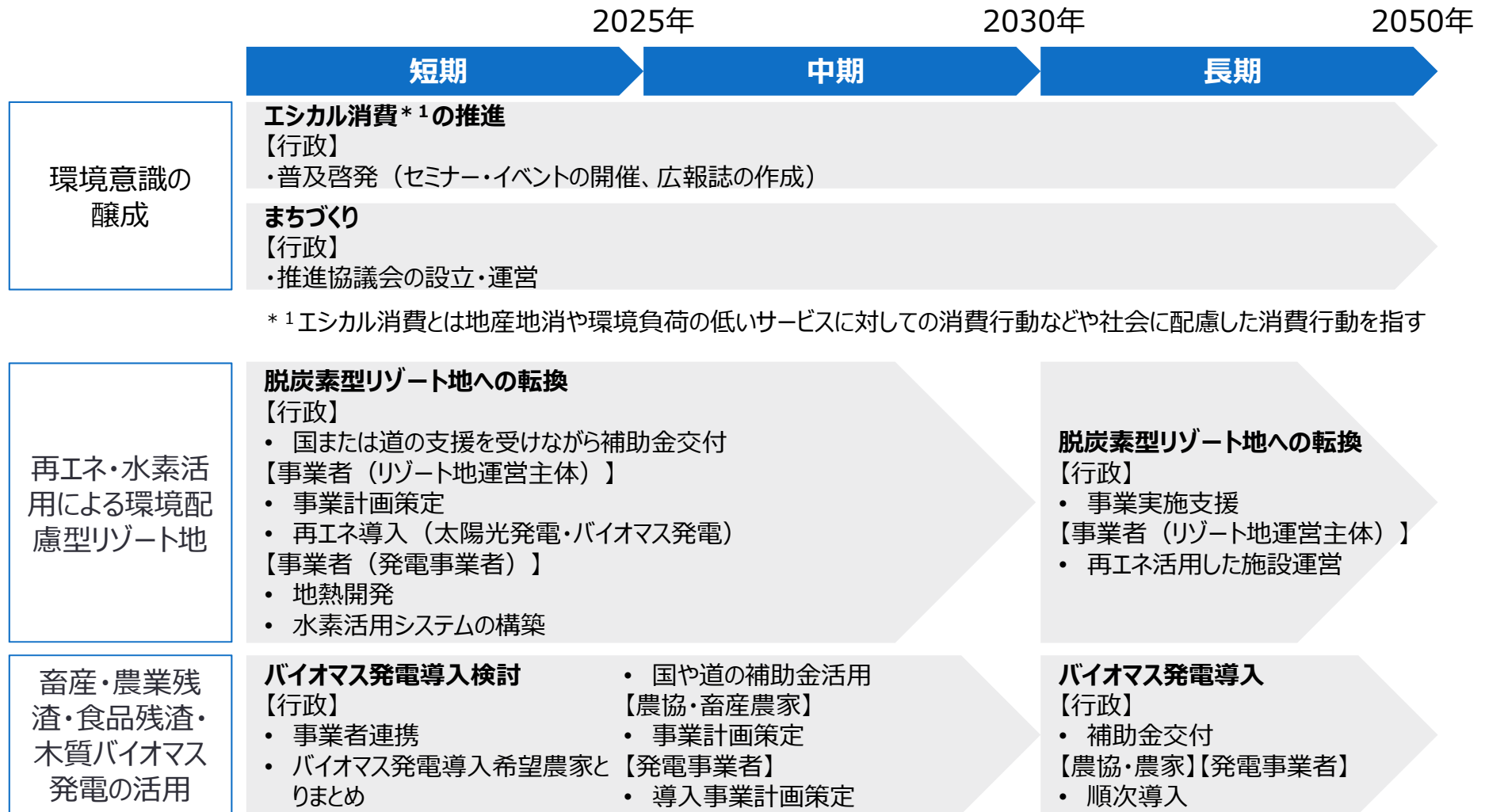
将来ビジョンの実現に向けたロードマップ



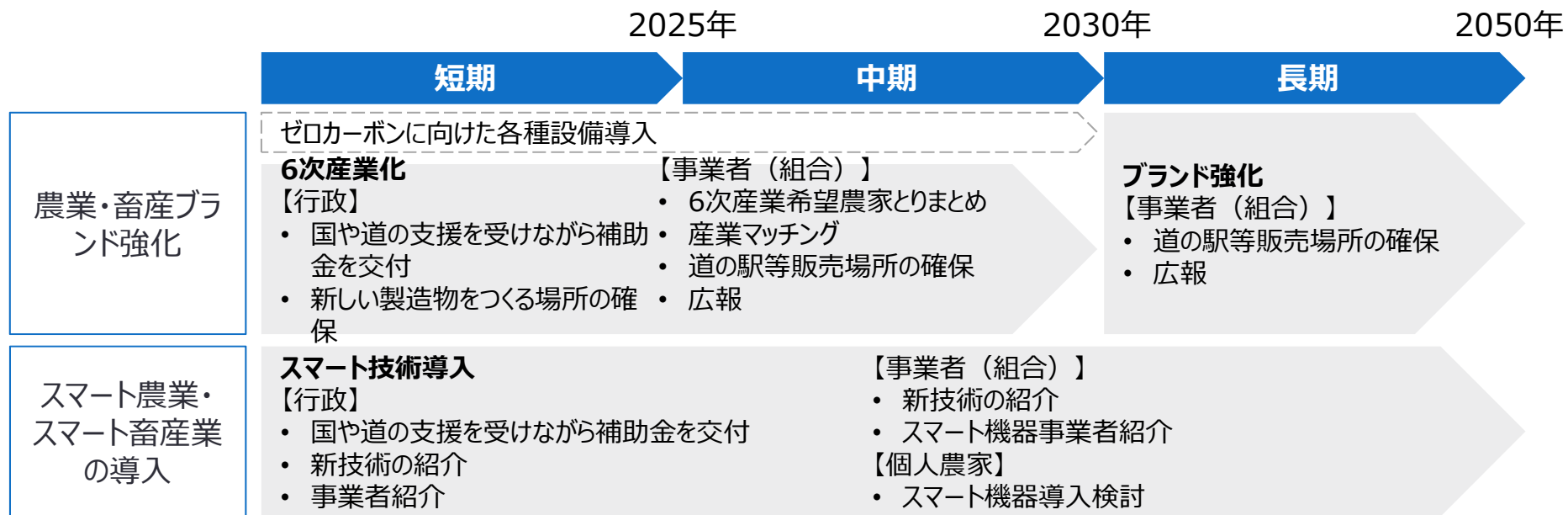
将来ビジョンの実現に向けたロードマップ



将来ビジョンの実現に向けたロードマップ



将来ビジョンの実現に向けたロードマップ



計画の実施及び進捗管理

- 本計画の持続可能性を担保するために、村内会議による定期検証と必要に応じた計画の見直しを行います。主に施策別の推進状況や効果に基づき、スケジュールや直近のアクションなどを実態に即した形で見直していくことを想定しています。
- 計画の見直しは、ロードマップに定めた目標に対する進捗や施策の進捗状況を踏まえ、その後の施策や計画の見直しを行うと共に、村の総合計画とも整合性を図ります。

